



南小だより 7月

7月の道徳の日
「善悪の判断、自律、
自由と責任」



あけまちの丘から
校長だより

6月18日の朝発生した地震により、地震はいつどこでどのような形で起きるか分からないということに改めて気付かされました。

緊急地震速報が流れたときは始業前で、運動場で遊んでいる人、動植物の世話をしている人、靴の片付けをしている人など、児童は思い思いの活動をしていました。でも落ち着いて行動し、室内では机の下にもぐり、運動場ではその場で低い姿勢で頭や身を守りました。しばらくして運動場に全員集合し、この時の行動を振り返りました。

これから夏季休業に入りますので、地震が起きたとき子どもだけで家にいる可能性があります。冷静に判断し行動するためには、機会をとらえて、行動の仕方を考えておくことが大事です。どこにいても「倒れてこない、落ちてこない、移動してこない」ところで、身を低くして「頭」を守ることを再度ご確認ください。また、揺れが大きかったとき、どこに避難するのか、家の人との連絡をどうするのか、助けを求める近所の人是谁なのかなど、地震の後の行動について、話し合っておくことが多くあります。

大阪府北部の地震では、ブロック塀の倒壊や家具の転倒などによる被害が報じられました。学校でも危険箇所については対策を講じているところです。先日も通学路上の危険箇所の情報をいただき、児童に指導しました。ご家庭でも防災の視点から生活を見直すとともに、「命を守る」行動がとれるようお話してください。

※参考「みんなで考える香川の防災ブック」香川県

7月の生活目標

「整理整とんをしよう」

「整理整とんは自分のためだけにするものではない」という言葉があります。これは、人はたくさんの人と環境や空間を共有して生きているので、周りの人のことも考えて整理整とんをするという意味です。常に片付けられている部屋や教室は、さわやかで気持ちが良い上に、必要な物がどこにあるかすぐ分かり、活動がしやすいです。1学期の整理をすることで、新たな気持ちと呼び起こせると思います。

(生徒指導主事)

「特別の教科 道徳」 よりよく生きる基盤づくり

今年度より「特別の教科 道徳」が始まっています。6月には4年生が「思いがけないあいさつ」という教材で研究授業を行いました。「礼儀正しい」ということについて活発な話し合いが行われ、自分の考えを深める学習となりました。道徳教育では、指導者が自分の心の質を高めることが大切です。そのために「子どもの言動に感動する」「子どもに感謝の言葉を発する」「子どもの言葉に最後まで耳を傾ける」「自分の生き様を語る」「子どもの幸せを心から願う」ことを実践していると思っています。(道徳教育主任)

子どもの頃の夏休みの思い出を聞いてみました。

- ▶今でも思い出すのは、船で釣りに行ったことです。小島に上陸しておにぎりを食べました。船酔いがひどかったのですが、ペロコを釣ったことを覚えています。(O)
- ▶コンクールに出品する絵ばかり描いていました。賞品の絵の具セットや電気スタンド、地球儀がうれしかったし、自信にもなりました。(Y)
- ▶子ども会のプール、2時間の自由時間が楽しかったです。親子で学校の体育館に蚊帳をつって寝たキャンプも思い出に残っています。(K)

